

【学力向上フロンティアスクール用中間報告様式】(小学校用)

都道府県名	北海道
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	鷹栖町立北野小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	14
児童数	27	32	15	29	25	36	2	166	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」の向上と「豊かな心」を育てる授業の創造  
 ~学ぶ楽しさとわかる喜びにあふれた授業を求めて~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1~6年算数(個に応じたきめ細かな指導による基礎・基本の確実な定着を図るため)  
 3~6年総合(個に応じたきめ細かな指導による生きる力の育成を図るため)

(2) 年次計画

平成 14 年 度	<p>テーマ 「確かな学力」の向上と「豊かな心」を育てる授業の創造                  ~学ぶ楽しさを味わい、わかる喜びにあふれる授業を求めて~                  研究の見通し(仮説)</p> <p>1 算数科において、個に応じた指導を行うためのチームティーチングを活用することにより、子どもをつまづきを把握し、理解の状況に応じた指導ができる。</p> <p>2 総合的な学習の時間において、興味・関心や学習スタイル等に応じた学習課題の選択を生かすためのチームティーチングや地域人材を活用することにより、学ぶ意欲が高まり、自ら課題を見つけ見通しを持って解決しようとする態度を育成することができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲を高め、学ぶ楽しさを実感させる指導計画の工夫</li> <li>・個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫</li> <li>・一人一人のよさや可能性を伸ばし個性を生かす評価の工夫</li> </ul>
	<p>テーマ 「確かな学力」の向上と「豊かな心」を育てる授業の創造                  ~学ぶ楽しさとわかる喜びにあふれた授業を求めて~                  研究の見通し(仮説)</p> <p>1 教材教具や問題の提示を工夫し、子どもたちの知的好奇心や探求心を高める算数的活動を取り入れることで、学習意欲が喚起され、自ら進んで問題解決に取り組むことができる。</p> <p>2 繰り返し学習やチームティーチングを取り入れることで、子ども一人一人の実態を的確に捉えるとともに、確実に指導内容の定着を図ることができるだろう。</p>

	<p>3 単元や授業の中に、子どもが自ら学習を振り返る場面を設定することで、子ども一人一人が自分の学習状況を確認することができ、自分自身の変容やお互いのよさを認め合い、次の学習への意欲化が図れる。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲を高め、学ぶ楽しさを実感させる指導計画の工夫</li> <li>・個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫</li> <li>・一人一人のよさや可能性を伸ばし、個を生かす評価の工夫</li> </ul> <p>研究の仮説についての変更理由</p> <p>昨年度の研究教科が国語科・算数科・総合の3本であったが、本年度は国語科をはずして算数科と総合的な学習に研究教科を絞ったため、仮説についても特に算数科に適合する方向で変更を行った。</p>
--	---

平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>「確かな学力」の向上と「豊かな心」を育てる授業の創造 ～学ぶ楽しさとわかる喜びにあふれた授業を求めて～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教材教具や問題の提示を工夫し、子どもたちの知的好奇心や探求心を高める算数的活動を取り入れることで、学習意欲が喚起され、自ら進んで問題解決に取り組むことができる。</li> <li>2 繰り返し学習やチームティーチング、教科担任制を取り入れることで、子ども一人一人の実態を的確に捉えるとともに、確実に指導内容の定着を図ることができるだろう。</li> <li>3 単元や授業の中に、子どもが自ら学習を振り返る場面を設定することで、子ども一人一人が自分の学習状況を確認することができ、自分自身の変容やお互いのよさを認め合い、次の学習への意欲化が図れる。</li> </ol> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲を高め、学ぶ楽しさを実感させる指導計画の工夫</li> <li>・個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫</li> <li>・一人一人のよさや可能性を伸ばし、個を生かす評価の工夫</li> <li>・研究の成果と課題のまとめ</li> </ul> <p>研究の仮説について</p> <p>特に、3年次であるため、算数科の研究で積み上げた成果を他の教科にも広げ、教員個々の特性を生かす教科担任制の充実を目指す。</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制

研究推進委員会	<p>&lt; 教頭，教務（フロンティアティーチャー），研修部長，校内研修担当，教科担任 &gt;（5名）</p>
<p>昨年度は、教育課程検討委員会が推進の主体であったが、今年度は研究推進委員会が研究を推進してきた。特に、低学年ブロック（第1～3学年）と高学年ブロック（第4～6学年）の2ブロック体制を継続し、充実した研究を目指し取組を進めてきている。</p>	

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究の成果

- 研究内容1 <学習意欲を高め、学ぶ楽しさを実感させる指導計画の工夫>について
- ・指導内容を踏まえた指導方法を明確にすることにより、見通しをもった授業を構築することができた。
  - ・教科書の指導内容を分析し、指導計画に基礎的・基本的な内容を位置付けることができた。
  - ・子どもたちが意欲的に活動し、思考を深めることができる教材教具の提示の仕方などの工夫することができた。
- 研究内容2 <個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫>について
- ・チームティーチングを取り入れたことにより、より個に応じた指導を行うことができるようになった。
  - ・「繰り返し学習」を行うことにより、算数の苦手な子も1時間の中で理解を深めていくことができ、意欲的に学習に取り組めるようになった。
  - ・授業中での計算スキルの活用や「コース別学習」の導入により、子ども自らが習熟の程度に応じてコースを選択することができ、意欲的に学習に取り組めるようになった。
- 研究内容3 <一人一人のよさや可能性を伸ばし、個を生かす評価の工夫>について
- ・評価の観点を明確にし、1時間ごとの評価規準を指導計画などに位置付けることができた。
  - ・単元の導入前や学習過程において、事前テストや学習指導チェック表等により、子どもたちの学習状況を的確に把握し、指導の改善に生かすことができた。

《資料1》

観点別の実現状況（教研式CRT学力検査より）

A：十分満足 B：おおむね満足 C：努力を要する

現6年 観点項目		15年度(6年時)		14年度(5年時)	
		全国(%)	学級(%)	全国(%)	学級(%)
関心・意欲・態度	A	80	67	52	31
	B	15	28	31	40
	C	5	6	16	29
数学的な考え方	A	34	19	28	11
	B	27	36	31	20
	C	39	44	42	69
表現・処理	A	57	44	42	17
	B	28	22	34	46
	C	15	33	24	37
知識・理解	A	75	53	40	3
	B	18	31	39	57
	C	7	17	20	40
全観点	A	57	44	35	11
	B	33	31	37	37
	C	10	25	28	51

現5年 観点項目		15年度(5年時)		14年度(4年時)	
		全国(%)	学級(%)	全国(%)	学級(%)
関心・意欲・態度	A	76	56	62	44
	B	17	28	27	35
	C	7	16	11	19
数学的な考え方	A	41	36	53	42
	B	28	28	23	31
	C	31	36	24	27
表現・処理	A	70	60	55	38
	B	18	20	27	27
	C	12	20	17	35
知識・理解	A	78	68	55	42
	B	16	24	31	42
	C	6	8	14	15
全観点	A	65	56	53	46
	B	27	24	30	27
	C	8	20	17	27

《資料2》算数の勉強は好きですか<校内算数学習アンケートより抜粋>

回答選択肢	3年		4年		5年		6年	
	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年
好き・楽しい	10	12	11	8	17	21	17	26
ふつう	4	4	15	15	6	3	16	9
嫌い・つまらない	2	0	3	6	1	0	3	1

## 2. 今後の課題

今年度の研究から以下のような課題に引き続き取り組む必要がある。

本時の目標を達成するための有効な問題作成や問題提示の工夫が必要である。

チームティーチングの効果的な取り入れ方や、個に応じた指導方法を工夫する必要がある。

学習内容の理解を図る教材を開発するとともに、計算力など基礎的・基本的な事項の定着を図る必要がある。

自己評価や相互評価も含め、次時への意欲を高める評価活動を工夫する必要がある。

特に、次年度は指定の最終年度であり、2年間の算数科を中心とした成果を生かし、他教科への取組の拡大や、教員の専門性を生かした教科担任制の拡充についても取り組む必要がある。

### 学力等把握のための学校としての取組

教研式 標準学力検査（CRT）の実施（4月実施）

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究会，説明等の開催実績及び開催予定

期 日	場 所	テ ー マ	対 象
平成15年11月28日	北野小学校	学力向上フロンティア公開研究会	全道，地域，保護者
平成16年 2月 7日	北野小学校	地域参観日	保護者，地域

<その他>

- ・平成15年度北海道公立学校教育課程実践研究成果への応募<全文掲載>

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】            15年度からの新規校             14年度からの継続校
- 【学校規模】                    6学級以下                             7～12学級  
                                       13～18学級                            19～24学級  
                                       25学級以上
- 【指導体制】                    少人数指導                             T・Tによる指導  
 一部教科担任制                        その他
- 【研究教科】                    国語                                    社会                                     算数                                    理科  
    生活                                    音楽                                    図画工作                            家庭  
    体育                                     その他（総合）
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】             有                                    無